

ごあいさつ

4月より臨海3Rステーションは、エコネットふくおか、循環生活研究所、九州コミュニティ研究所からなる3社のNPO法人による共同事業体での運営へと移行しました。

いま、世界の環境問題は、地球温暖化が引き起こす大規模な気候変動により、洪水の多発、異常高温、異常積雪など、これまでの前例や経験が役に立たない、環境変化にさいなまされています。新型コロナによる社会の混乱も、大量の地下資源の使用による、地球温暖化や環境汚染と無縁ではないでしょう。

自然環境の破壊が進む今日、身近な自然を大切にすることが求められています。従来のごみに着目し3Rを唱えているだけの活動では、環境問題の解決には至らないことが明白なものとなってきました。

これからは、特徴的な3つの団体が力を合わせ、身近な自然を大切に、市民の皆さまの実生活に根差した、省資源で高質な都市生活の提案を発信してまいります。

臨海3Rステーション 館長 馬場崎 正博



「イーコトフェスタ(旧元気フェスタ)」を開催します!

📅 8月22日(日)

暮らしに身近な環境問題とその解決に向けた取り組み(イーコト)について、体験しながら学ぶイベントを開催します。

昨年まで「元気フェスタ」と題して多くの皆さまに参加していただいたイベントが「イーコトフェスタ」とリニューアルして、さらにパワーアップ! 最近話題のSDGsの学習コーナーをはじめ、館内にはさまざまなブースが出演。3Rを実践するものづくりのワークショップや自分のお箸(マイはし)が作れる木工体験など、楽しい催しが満載です。昨年は中止となった人気のフリーマーケット(館外駐車場)も開催します。

🕒 10:00~15:00

🎫 一部、材料費をいただくものがあります。

👁️ プログラムによって必要なものもあります。公式HPでご確認ください。

●3Rものづくりワークショップ

マイクロプラスチックを使った「リユースアクセサリー」や繰り返し使えて地球にも優しいエコ「蜜蝋ラップ」、おなじみの「スマホスタンド」や「裂き織り」など、作って持ち帰ることができる、ものづくり体験コーナーです。

●リユース陶器市

新品ではないけれど、まだ十分に使える陶磁器がたくさん集まります。大事に使いたくなる掘出し物を見つけるチャンスです。エコバッグ持参でお越しください!

●環境子どもサポーター

子どもたちの環境問題への理解をすすめるための体験ツアーを開催します。清掃工場の見学やワークショップの体験など、楽しみながら学べるプログラムです。

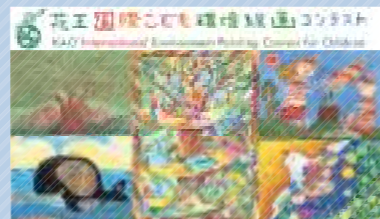


同時開催

「花王国際こども環境絵画コンテスト」入賞作品展示会

📅 8月3日(火)~29日(日) 🕒 10:00~15:00 🎫 無料

このコンテストは、世界の子どもたちが身近な生活のエコと地球の環境・未来に真剣に考え表現した作品と願いが、人々の心を動かし、そのライフスタイルも変えるきっかけとなることを願い、2010年から花王グループが実施しています。期間中、入賞作品の一部を臨海3Rステーション2階で展示します。



福岡市 Fukuoka City Seaside 3R Station
臨海3Rステーション

〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭4丁目13番42号

《WEB》 <https://rinkai3r-station.com/>

《TEL》 092-642-4641 《FAX》 092-642-4598

《休館日》 月曜日(祝日の場合は次の平日)、年末年始

《開館時間》 10:00~17:00

《アクセス》 ●地下鉄「貝塚」より徒歩約20分

●西鉄バス「リサイクルプラザ前」より徒歩約1分

●西鉄バス「高須磨町」より徒歩約10分



身近な暮らしから「環境」について考える

ECCOT

イーコト

毎日使ってる
ものだけど...

01

2021. 夏号
summer

マイクロプラスチックが、
あなたの暮らしを脅かす!?

「マイクロプラスチック」って?

身の回りのいろんなところで使われるプラスチック。安価でとても便利ですが、ごみとして海や河川に流れ出てしまうと、数千年にわたっても自然分解されず漂い続けてしまいます。なかでも、長期間放置される中で細かく砕かれ、5mm以下になったものは「マイクロプラスチック」と呼ばれ、回収することが困難なうえ、魚や鳥などの生き物の体内にも入り、海洋汚染や生態系への影響も問題となっています。

2018年8月、鎌倉の由比ガ浜にシロナガスクジラの赤ちゃんの死骸が打ち上げられました。赤ちゃんとはいえ体長は10m超。日本の海岸に漂着した記録は過去にありません。それだけでも大きなニュースですが、もっともショッキングだったのは、体内からプラスチックごみが発見されたことです。絶滅危惧種であるシロナガスクジラの赤ちゃんにまで影響を及ぼしていたことが判明し、プラスチックごみの削減がますます注目されるようになりました。

「マイクロプラスチック」について身近な暮らしから環境について考える情報誌「イーコト」では、創刊第一号のテーマとして、マイクロプラスチックについて紹介します。マイクロプラスチックとは何か、そして引き起こされる問題とはどのようなものか。福岡における動きやその課題解消に向けた取り組み(イーコト)と合わせて、その現状に迫ります。



マイクロプラスチックが引き起こす問題

大きさは5mm以下と、とても小さなマイクロプラスチックですが、引き起こす問題は決して小さくありません。海の中を漂っているので回収が極めて困難なうえ、プラスチックは分解されないのが半永久的に漂い続けます。また、プラスチックの表面には細かな凹凸があり、有害な化学物質を吸着しやすい性質を持っていたり、プラスチック自体にも添加剤が使用されており、その添加剤が海洋汚染の原因ともつながっています。これらの課題については、以前から警鐘は鳴らされてきましたが、明確な解決策はいまだに見出せていません。

●海洋生物への影響

問題の筆頭は、海洋生物の生態系破壊です。魚類、甲殻類、貝類のほか、カモメなどの海鳥やアザラシなどの海洋哺乳類も海水に混ざったマイクロプラスチックをエサと間違えて食べてしまいます。体内に入ると、内蔵に詰まったり、付着していた有害な化学物質が蓄積し死に至らしめるケースもあります。

●人体への影響

海洋生物だけではなく、人体への影響も研究で明らかになってきています。化学物質に汚染された魚を食べると間接的に人間の体内にも化学物質が入ってしまうことになります。人体への影響は、ハッキリと解明されていない段階ですが、マイクロプラスチックからは、がんの発生や代謝性疾患の発症を引き起こす可能性のある化学物質が検出されています。

現在、世界中で問題視されるこの課題は、SDGs「目標14.海の豊かさを守ろう」にも掲げられています。海に流出するプラスチックの量は、世界中で年間800万トンだという試算や2050年には海洋プラスチックごみの重量が魚の重量を超えるという数値も予測されています。しかし、海の汚染が深刻だと耳にしたことはあっても、実際に海を守るために何をすればよいか答えられる人は少ないかもしれません。プラスチックごみが海の生態系にどのように影響を与えているのかを学び、どうすれば海の豊かさを守るのかを考えてみましょう。

TOPICS A

マイクロプラスチックは2種類存在する

●一次マイクロプラスチック
製品や製品原料として使用する目的のため、微小なサイズで製造されたプラスチックを指します。つまり「元々小さかったプラスチック」です。排水などを通じて自然環境中に流出します。【例：スクラブやマイクロビーズなど】

●二次マイクロプラスチック
プラスチック製品が自然環境中で劣化し、粉々になることで生じたマイクロプラスチックを指します。つまり「元々大きかったのに摩擦等で小さくなった破片」のことです。大きなサイズで製造されたあと、波や紫外線に晒され劣化することで発生します。【例：ペットボトルやビニール袋など】

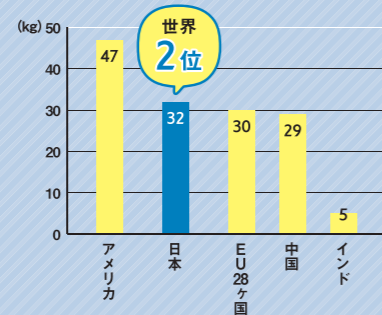
【プラスチックの流出量】

世界の海洋には1億5,000万トン

プラスチックが問題視され始めた1970年代から、毎年数100万トンから多いときには1,000万トンものプラスチックが流出しています。

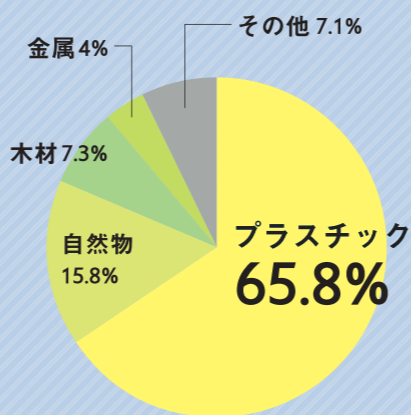
【1人あたりのプラスチックごみ排出量】

【参照】2014年国連環境計画の報告書



データ上でも日本の1人当たりのプラスチック廃棄量は年間約32kgであり、アメリカに次いで世界2位となっています。

【漂流した海洋ごみの割合】



【参照】平成28年度全国10地点で実施された漂着ごみ調査結果

日本では、漂着した海洋ごみの個数の内、65.8%がプラスチックごみであり、半数以上を占めています。また、陸上から海洋に流出したプラスチックごみ発生量は年間2~6万トンと推計されています。

対策は日本よりも海外で進んでいます

それらの課題対策において、残念ながら日本は遅れをとっています。すでに45カ国以上の国々でレジ袋の使用禁止が批准されており、欧州議会では2021年から、ストロー、食器、綿棒、マドラーなどの代替可能な使い捨てプラスチックの使用も禁止されることになっていますが、日本ではようやく「レジ袋の有料化」が始まったところです。

まずは、他国の事例に学びつつ、世界の国々と同様の危機感を持つことが、海に囲まれて暮らす日本人の大切なミッションだといえます。新型コロナウイルスの影響で物流が滞ったことも考慮し、今後は自給自足

や地産地消ができるサイクルで物を循環させれば、結果的にプラスチックの包装を減らすことも期待できます。また、どうしても必要なプラスチックは、石油ベースからバイオマスベースの素材に転換し、安全な添加剤を使い、最終的にはリサイクルしていくことも大事な視点です。私たち一人ひとりも、毎日の生活の中で、どうやったらプラスチックの使用量を減らせるのかを考え、行動に移していく必要があります。その考え方の基本となるのが「3R」であることは、いうまでもありません。

01 イーコト

はじまる、マイクロプラスチックの影響調査 自然環境定量評価研究会 + 臨海3R

博多湾は、多くの渡り鳥の中継地で、良好な採餌の場として知られており、マイクロプラスチックの汚染状況については、実態を把握しておく必要があります。

自然環境定量評価研究会では、昨年度実施した北九州市曾根干潟でのデータを活かし、栄養が豊富で野鳥の飛来も多い多々良川河口域と名島海岸での調査を福岡市内ではじめて、臨海3Rステーションと共働で実施します。野鳥が安心して休息できる自然を守っていききたいものです。



【調査方法】

一定量の砂と海水を採取し、分離させて出る浮遊物を計測します。

02 イーコト

拾ったごみが愛着あるモノに生まれ変わる RETTER by greenbird

「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに、全国各地で清掃活動に取り組む「グリーンバード」では、直径90mmの丸型コースターの販売をスタートしました。このコースターは、全国各地の街や川、海で拾ったプラスチックごみを洗浄し粉砕、フィルムに挟んでプレスして成型し作り出したものです。ごみの種類や型によって異なるため、1つとして同じデザインが存在しないのが特徴です。このコースターの購入は、街や海をきれいにする活動の応援にもつながっています。



明日からできる Activity

暮らしの中のプラスチックと向き合う

3年ほど前、「3days plastic challenge」という企画をNPO法人循環生活研究所と天神LFCの有志メンバーで行いました。3日間、one way(使い捨て)のプラスチックを使わない暮らしに挑戦する、というシンプルなもの。初日、食材を買いに行ったスーパーで早くも大きな壁にぶつかりました。プラスチックに包まれていない商品なんて、ひとつもないんです...結局諦めて普通に買い物をした私。でもその日から、リサイクルマークがついているプラスチックは、分別が気になるようになりました。決してチャレンジ達成できたわけではないですが、プラスチックを手放せない日本の現状と向き合った3日間でもありました。お気に入りが高機能のマイボトルや可愛いミツロウラップなど、少しお金をかけて準備しようと思ったのもこの期間があったからこそ。みなさんも、3日間、いや1日だけでも、身の回りのプラスチックに向き合ってみませんか？



TOPICS B

代表的なプラスチックの種類と用途

日本で販売される容器や包装には、プラスチックでできた製品であることを示す「プラマーク」の表示が法律で定められています。「PE」「PP」などの種類を表すアルファベットも表示されていますので、家にあるものにどんなプラスチックが使われているのか、ぜひ調べてみてください。

